

泊 建 水 号
平成20年10月15日

国 土 交 通 省 道 路 局 長 様

泊村長 牧 野 浩



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについて、別紙のとおり意見書を提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道泊村

北海道の地形は、日本海と太平洋に囲まれた島国であり、我が国の国土面積の22%を占める広大な土地と豊かな資源を有し、本州と相違して、気候や風土、そして歴史やライフスタイルなどから、独特な固有の文化と独自性のある地域社会を形成しております。更に、北海道の面積は、他県から比較して広く、人口密度が低い状況から、地方自治体は、都市との距離が比較的に離れた広域分散型社会を形成し、自律性が高く、自治体との結びつきを重視し連携した独自の姿を実現しているところであります。

今日の北海道は時代の潮流と道路行政を考慮した場合、生活圏にある自治体では、住民が「安全と安心」のできる道路行政を期待するものであります。従って、①地方における救急医療の搬送路線拡充のための高速道路の整備、②交通事故の多発する道路の改良、③降雪による視界障害の解消及び雪崩防止等について、再度の見直しを進めて、より一層の効率的、効果的な道路の整備がなされるよう要望いたします。

②－１ 地域の現状と抱える課題

北海道泊村

○現状

我が泊村には、北海道電力㈱の原子力発電所1・2号機の運転と平成21年12月には、3号機が運転する計画にあります。

北海道の電力供給は、30%を原子力発電で占めおり、北海道で生活をしている住民は、安全と安心した社会生活を過ごしていると言っても過言ではない。

国策として進められている原子力発電所の電力需要を考慮した場合、原子力発電所の立地する自治体としては、あってはならないとされている、原子力災害が発生した場合の避難路は確保しなければならない問題であると考えられます。

○課題

現状から、原子力災害が発生した場合には、主要路線である国道229号は、積丹半島を迂回することとなり避難距離と避難時間がかかること、更に神恵内から古平町に通ずる道道古平神恵内線も冬期間の降雪や吹雪により通行止めとなることがあり、冬期間の除雪の充実が望まれる。

住民の「安全で安心した暮らし」が確保されることが重要であり、地域の目指す将来像であります。

そのためには、生活幹線道路の整備促進（救急医療・生鮮食品の搬入搬出等）、災害時の避難道路の整備促進、高速道路の整備促進、冬期間の視界障害の対策と積雪時の道路幅員の確保などの道路施策を計画的に進めることを期待します。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道泊村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	北海道横断自動車道(黒松内小樽間)の整備	救急医療の搬送路線拡充による安全・安心の確立	
計画的・効率的な維持管理や更新の推進	除雪や吹雪対策などの冬期交通対策の推進	降雪による視程障害緩和や車道幅員の確保による冬期間の安心・安全な交通確保	
大規模な地震、火災に強い国土づくり等	災害時の避難道路の整備促進	幹線道路における防災対策の推進と、北海道横断自動車道(黒松内小樽間)や道道等の迂回路線拡充による安心・安全の確保	